有田川町議会広報

かわら版

第70号

令和５年８月発行

QRコードから
議会の情報を
ご覧ください

有田川町議会 検索

発行／有田川町議会　発行責任者／議長　谷 畑　　進　編集／広報広聴常任委員会　印刷／協栄印刷
〒643-0021 和歌山県有田郡有田川町大字下津野2018番地４　TEL：0737-22-3294（直通）　FAX：0737-52-2198

特集

6月2日の豪雨災害
近年にないほどの大規模災害に！

台風2号と梅雨前線の影響により、線状降水帯が発生し、記録的な雨量をもたらしました。

この豪雨により道路の寸断や農林業をはじめ家屋の損傷、浸水、停電、断水など、近年にないほどの大規模な被害となりました。唯一、人的な被害が出なかったことが不幸中の幸いでした。

被害に遭われた方々にお見舞い申し上げるとともに一日も早い復旧をお祈りします。

議会広報としてここに被害を再確認し、今後の教訓となるよう特集を組みました。

関連予算の詳細はP12を参照ください。

おもな被害

【産業】

●農林業
園地崩壊、浸水、土砂流入・流出、ビニールハウス被害
（6月21日時点）

【農作物】

町内被害総額
4億5316万円
（6月22日時点）

○みかん樹木の被害
73件（約3.4ha）
4億2930万円

○山椒樹木の被害
6件（5アール）
434万円

○農業用施設
モノラック、スプリンクラーなど
17件　663万円

○その他被害
1289万円

【町管轄分】

○農地　435件
○農業用施設　56件
○林道　6件
○町道　48件
○河川　73件
（6月21日時点）

【県管轄分】

○県道・国道　20件
○河川　57件
○土石流　2件
○地すべり　1件
○がけ崩れ　23件
（6月12日時点）

【生活面】

○罹災証明（罹災届出）
受付件数　44件
うち床上浸水　23件
（6月21日時点）

○断水　2件
（6月3日昼に復旧）

○停電　多地域
最終復旧は6月7日

○通信
携帯電話が基地局の被災で不通になった。
崩土による光ケーブルの破損でネットやテレビが使えなかった。

○交通
崩土による通行止めが多数（主要道は6月3日に復旧）発生した。
JR、国道、海南湯浅道路、湯浅御坊道路などが不通となった。

○避難者数
吉備　35人
金屋　44人
清水　25人
合計　104人

●消防団員の出動
423人が詰所への待機・出動を行った。

【商工観光】

店舗への浸水など
12件

災害支援制度

●商工観光関係

①罹災証明を受けた中小企業は、県中小企業融資制度の「経営支援資金（一般枠）」「短期決済資金（一般枠）」を利用できる。
②被災した県内事業者への「特別相談窓口」を設置。
相談窓口（県商工観光労働課）　073－441－2724
融資制度（県商工振興課）　073－441－2744

●産業関係

農林業被害（台風２号による農作物被害にかかる）支援策
①県単独事業（1/3補助）
モノラック、スプリンクラー、ビニールハウスなどの復旧
②生活営農資金（貸付利率0％）
・運転資金　限度：200万円
・施設資金　限度：350万円

●見舞金

・社会福祉協議会より床上浸水の被害に遭われた方に、お見舞金3万円
・和歌山県より床上浸水の被害に遭われた方に、お見舞金5千円

議会の「ライブ配信（生中継）」始まる!

令和５年第２回定例会から「ライブ配信（生中継）」を開始しました！
リアルタイムで議会の模様をお届けします。
今までの録画配信とともにパソコンやスマートフォンなどでご覧ください。

令和５年第2回定例会の一般質問は6月15日に行われ、7人の議員が登壇しました。
各議員の一般質問は紙面の都合上、要約したものを掲載しております。

一般質問

7人の議員が登壇

殿井　堯	新たな部課長の取り組む姿勢は	P３
椿原竜二	早急な災害復旧と対策を	P４
栗山昌之	明恵上人生誕８５０年の関連事業は	P５
増谷　憲	災害復旧は万全に	P６
星田仁志	ありだがわ楽市の評価は	P７
堀江眞智子	安心・安全な町に向けての対策を	P８
岡　省吾	台風に伴う豪雨災害を受けて	P９

（おもな質問項目を掲載しています）

※各議員ページのQRコードを読み取ると、一般質問の動画を視聴できます。

次回、令和５年第３回定例会の一般質問は、９月14日、15日を予定しています。

新たな部課長の取り組む姿勢は

殿井　堯

問 新たに議会へ出席する職員の具体的な仕事内容と取り組む姿勢はどうか。

答（福祉保健部長）
福祉分野の総合課であり、ワンストップサービスを心がける。

答（総務課長）
災害への備えとして防災体制の構築や区長会、自主防災組織との連携を重視していく。

答（清水行政局長）
農林産物の活用や移住就業支援施設の利用を促進したい。
また、しみず温泉の改修もある。
町外に出た方が戻って来たいと言ってくれるまちづくりをしたい。

問 町長は職員に、どのような期待をもっているか。

答 現場の責任者としてのリーダーシップや対話力で全体をまとめ、働きやすい環境づくりをしてほしい。

問 二川の移住就業支援施設「ふたがわ寮」の取り組みはどうか。

答 町内で仕事をしている2人が入居することになった。
施設があることを町外に知らせていく。

問 今回の災害で孤立した地域への対応はどうだったか。

答 五郷地域が孤立し、林道から迂回して安否確認を行った。ドクターヘリの要請もあった。

問 しみず温泉の改修でどう期待に応えるか。

答 観光客が多く来るようふるさと開発公社と連携して取り組む。

問 新型コロナウイルスが5類になって対応はどうか。

答 感染者への入院措置・勧告はなくなり、医療費の一部が自己負担になった。

問 相談窓口の体制は。

答 相談の受け付けや医療機関の紹介をしている。

赤バスの利用規定は

問 町所有の「赤バス」は町内各団体に利用されている。利用には条件があるのか。また、どのような場合、利用できないのか。

答 利用できるのは、町が主催や事務局をしている行事。また、職員が同行することを原則にしている。団体だけでの利用はできない。

問 利用規定は、どのような経緯で定めたのか。

答 国の交付金で購入したため、利用条件を明確化する必要が生じ、平成16年に規定を定めた。

問 バスの利用実績はどうか。

答 年間100回以上あったのが、最近は30から40回に減っている。

問 すべての団体が研修などで利用できるようにならないか。

答 柔軟な対応をしたいが、広く利用できるとなると収拾がつかなくなる。また、法律上の制限もある。

早急な災害復旧と対策を

椿原　竜二

問 6月2日に発生した台風2号などの影響による線状降水帯の降水量は。

答 24時間雨量は、吉備　421㎜。井口　426㎜。宇井苔　428㎜。清水　362㎜。下湯川　430㎜。1時間雨量は、吉備　76㎜。清水　70㎜。

問 把握できている農地災害は。

答 有田管内の被害面積が約9.8haで10億6000万円の見込み。

有田川町は278カ所以上、約4.4haで4億5300万円の見込み。内容はみかん園地などへの土砂流入や園地崩壊などによる樹体被害が最も多く、81件で約4億3500万円。

その他、ハウスやモノラックの施設災害が18件で約1700万円。（6月15日時点）

問 自己負担が大きく、農業を続けていくことを諦めようと思っているとの声を聞く。有田地方の一次産業を守っていくために、特例措置や支援策が必要だと考えるが町長の見解は。

答 そのとおりだと思っている。できるだけ早く査定を行い、県や国に要望していく。

町内各地で道路が冠水し、通行に支障をきたした。

問 児童生徒は結果として厳しい状況で下校することになってしまったが、今後の対策は。

答 各小中学校の対応には課題があったと考えている。今回を教訓に、各学校で下校措置の見直しを指示した。

問 朝イチに警報が出ていなかったが、子どもの安全を最優先し、休校にすべきではないか。

答 警報が出ていなくても大雨が予想できる場合は、休校にするなどの判断を教育委員会で行っていく。

問 避難所や学校の体育館へのエアコン設置計画は。

答 今後も計画的に設置していきたいと考えている。

疾病患者への支援策を

問 アピアランスケアの相談窓口を設置すべきだと考えるが見解は。

答 必要性が高まっていると認識し、健康推進課に設置したい。

問 がん患者アピアランスケア支援事業が県で実施されている。本町で補助制度創設の考えは。

答 ウィッグや乳房補正具などの購入補助を前向きに検討していく。

問 男性用トイレへのサニタリーボックス設置の考えは。

答 各庁舎1階の男子トイレには早急に設置する。また、その他の公共施設も前向きに設置を進めていきたい。

※その他「クビアカツヤカミキリの被害対策について」も質問しました。

全体が光沢のある黒色で、胸部は赤色。

発見した際はすぐに報告を

明恵上人生誕850年の関連事業は

栗山　昌之

問 明恵上人生誕850年の関連事業は実施するのか。

答 明恵上人は有田川町の偉人で今年は生誕850年。

町民の皆さまとともに顕彰し、町内外へと広くPRしていく。

8月27日に記念式典および記念講演を開催する。

10月にかけて「夢」「お茶」「和歌」の記念講演会、史跡探訪会やアレックでの企画展を開催する。

県立博物館や有田市、湯浅町などと連携協力し、PR活動を実施する。

食物アレルギー対策は

問 災害用の非常食はアレルギー対策がされているのか。

答 28品目の対策がなされたものを用意している。

使用前にはアレルギーの有無の聞き取りを行い提供する。

問 学校に弁当持参の子どもがいると聞く。保護者の負担や子どもが感じるストレスは大きい。

学校給食で7大アレルゲンを除去した給食はできないか。

答 今後研究していく。

問 保育所の給食はどうか。

答 個別の取り組みプランで対応し、ガイドラインを厳守している。

ガイドラインは問題が発生した時に更新し、給食調理の業者に通知している。

問 賞味期限が迫る非常食を、防災教育など学校で活用できないか。

答 要望があれば学校にも提供できる。

ありだがわ楽市の成果は

問 第1回「ありだがわ楽市」の成果を検証したのか。

答 「どんどんまつり」に代わるイベントとして、有田中央高校などの関係団体と連携し、開催した。

実施後、実行委員会で検証した。

「駐車場や広報不足」「来場者の少ない部門があった」「農繁期と重なるため参加が困難」などが挙げられた。

文化協会からの意見で次回から文化祭を分離する。

豪雨災害 今後の対策は

問 河川対策は県に要望しているが、町で行う治水対策は。

答 道路の冠水対策は区長や住民の方々に情報をいただき、要望や危険箇所を確認する。

排水能力を考慮し緊急度の高い箇所から流下能力向上に取り組む。

災害対策は万全に

増谷　憲

問 激甚災害の指定はされるのか。

答 激甚災害の指定を受けられるよう取り組んでいる。

問 台風2号による被害対策として、商工業や農家の方への特別な支援が必要ではないか。

答 商工業の方には、融資や短期決済資金制度の活用などを相談してほしい。

農家には、共済制度や収入保険制度の活用がある。

農地などの復旧は、国へ補助申請をしていきたい。

問 倒木対策が必要ではないか。

答 山主と協議し、県単独事業の広葉樹林化推進事業やその他の対応できる事業を探したい。

問 今回の災害で、地域防災計画へ補充しなければならないことがあるのではないか。

答 抜けているところがないか精査していく。

がん患者への支援策は

問 ストーマ装具（袋）の補助制度はあるが、国の予算額が少ない。

国への働きかけと支援の拡充はどうか。

答 実態に合わない補助で毎年、国へ要望している。支援の拡充は現在のところ考えていない。

国民健康保険税の引き下げを

問 国保税の引き下げはできないか。また高校卒業までの子どもの均等割額3万1400円を半額にした場合、対象人数と負担額は。

答 国保事業の統一化があるため国保税の引き下げは難しい。

均等割額を半額にした場合の対象は845人、約960万円。町独自では難しい。国の動向を注視したい。

問 18歳まで医療費を無料にしていると国は補助金を減らす。減額はどのくらいか。また減額しないよう国への働きかけは。

答 減額分は約229万円。減額措置は廃止の方向にあり、注視していく。

問 国が医療費負担金を減らしたままだ。全体的にどのくらいか。

答 令和3年度では約1億7262万円の削減。

仮称「徳田大橋」の進捗状況は

問 「徳田大橋」の建設に向けての取り組みはどこまできているか。

答 促進協議会などで県へ要望活動をしている。

問 今後の取り組みはどのようになるか。調査費が必要ではないか。

答 調査費もそうだが、関係町村を増やし、協議会をつくり進めていきたい。

ありだがわ楽市の評価は

星田　仁志

問　「どんどんまつり」は、平成10年から始まり20年以上の歴史がある。名称も多くの方達に知れ渡り、開催を楽しみにしている方も多くいた。

その歴史をつくってきた「どんどんまつり」を中止し、有田中央高校の「品評会」と同時開催となった「ありだがわ楽市」は、成功だったと思うか。

また、反省するところがあったのか。

答　「品評会」と同時開催することにより、伝統の継承・有田中央高校のPRにもつながった。

学校・農業者・地域との交流が生み出されたと考えている。

当日は、約1万2０００人の方々に来ていただき、町の魅力の再発見・再認識をしていただく良い機会となった。

その後、開催した実行委員会において、多くの反省点・改善点の意見が出た。

問　多くの方に来場していただいたことは、非常に喜ばしいことである。

しかし、ほとんどの方が出店会場に集まり、文化祭会場には数人しかいなかった。

今後は、町民の意見を十分聞いて、改善できるところは改善されたいが町の方針は。

答　今後も改善策を講じながら事業者・農業者・各団体・高校が活躍でき、町の魅力を認識し、楽しんでいただくイベントをめざしていく。

昨年度のポスターより

道路沿いの雑草ゴミの処理は

問　車で町内を走っていると、道路沿いの雑草が目に付く。

また、空のペットボトルや空きカン・空きビン・その他のゴミが捨てられている。

なぜ、このようになるまで放っておくのか。

答　町道沿いの雑草は、イメージアップ事業やシルバー人材センター・建設課の職員で対応している。

国道や県道は、県の道路整備員や作業委託業者により整備をおこなっている。

今後は、道路パトロールや各地域の情報などをもとに道路の維持管理に努めていく。

鉄道公園の雑草の処理と植木の剪定についても質問しました。

雑草が目につく道路

安心・安全な町に向けての対策を

堀江　眞智子

問 今回の豪雨による被害は。

答 人的被害はなかったが、床上浸水が10件、床下浸水40件、道路の冠水23カ所。二澤・北野川・上湯川で停電が発生したが6月7日に復旧した。町道・県道合わせて40カ所以上、河川96カ所以上。現在も調査中である。

問 天満川治水対策の進捗状況は。

答 断面狭小により流下能力が低下している区間の河道拡幅を行うため、県が堤防改修の測量設計業務に着手している。現在は、用地測量と構造物の詳細設計を行っている。

問 天満川に流れこむ側溝の改修は。

答 天満川と側溝との合流地点を改良・改修する計画である。

天満川の拡幅工事が完成したのちに、側溝の状況を調査し検討していきたい。

児童生徒の安全な下校対策を

問 警報が発表された段階で、集団下校などの判断ができなかったのか。

答 1限目終了時に下校すると、すぐに自宅に戻れない保護者がいる。昼食を食べられない可能性がある児童がいることを考慮し、給食を食べてから下校する判断を行った。

問 今回のようなことが予想される場合、警報発表前であっても自宅待機にするよう検討できないか。

答 過去、事前に臨時休校の判断を行ったことがある。今回の大雨を教訓に、大雨や暴風が予想できる場合は、警報発表前であっても事前に休校にするなどの判断を教育委員会で行っていきたい。

育休中でも保育の維持を

問 育児休業を取得しても3歳までの乳幼児の保育を希望する場合は、退園の措置を免除するよう早急に検討されたいがどうか。

答 保育の利用を必要とする事由は「就労」「妊娠・出産」「疾病・障害」「親族等の介護」などを規定している。「就労」の事由で入園しても、在園中に出産して育児休業を取得する場合は「妊娠・出産」の事由になる。規定では、「妊娠・出産」を事由とする入所は、出産後8週間の期間となっているため、期間終了後は、退園をお願いしているが、個々の状況により判断している。

台風に伴う豪雨災害を受けて

岡　省吾

問　豪雨災害を受け、町内被災状況の把握はどうであったか。

答　今回の大雨は短時間に集中したこともあり、寄せられる情報も時間帯が集中した。

その中で、被災状況の把握と情報収集に努め、土のうや水のう袋の緊急的な配布、山崩れや道路の通行止めへの対応を行った。

問　復旧作業に際し、安全確保の観点から、二次災害防止に関しての指導はどうか。

答　復旧作業の依頼時には、安全を第一に活動していただくよう注意喚起に努めている。

消防団においても、安全に関する幹部研修を実施し、災害現場の安全管理を周知徹底している。

問　孤立集落における救急要請体制の基本的な方向性はどうか。

答　可能なかぎり車両で接近し、徒歩での救急対応になる。状況によっては防災ヘリを要請し搬送を依頼することになる。

問　今回、そのような地域での救急要請はあったのか。

答　完全な孤立ではないが、崩土で道路が通行止めになり、林道から迂回して集落に入り、通常より1時間以上の時間を要した事案が2件あった。うち1件はドクターヘリを要請した。

問　当該地域における迂回路の重要性を改めて痛感する。町の見解を質す。

答　緊急車両の通行、食料品・生活物資の調達など、地域が孤立しないよう出入りすべき迂回路は重要と考えている。

通行不能になりやすい場所の安全対策に向け、道路改良の余地を探り、県と協議していきたい。

問　帰宅困難者の把握と対応はどうであったか。

答　帰宅困難者の人数は把握できていない。

今後とも、柔軟な避難所運営を心掛け、帰宅困難者の問題も含め、災害発生時の混乱を最小限に食い止めるよう努めたい。

問　減災の観点から、県に対し、放置されたままの風倒木の撤去や治山・法面対策を講じられるよう、より強力に働きかけられたい。町の見解は。

答　県道沿いの風倒木に関して、災害を未然に防ぐため、道路管理者である県に対し、早急に撤去してもらえるよう強く要望する。

令和5年度で治山事業に関しては4カ所、砂防事業を8カ所、急傾斜地崩壊対策事業で2カ所、小規模土砂災害対策事業を4カ所予定していただいている。

引き続き、減災対策を県に対して要望していく。

※その他「町が主催する各式典のあり方に関して」も質問しました。

一般会計補正予算8億1497万円（専決・追加含め）
災害復旧関連予算に3億8863万円

令和５年度第２回定例会は、６月５日から20日までの日程で開催しました。
災害復旧関連予算などを中心に、令和５年度一般会計・下水道事業会計・簡易水道事業会計の補正予算、条例改正、請負契約の締結、変更契約の議案など原案のとおり可決しました。

一般会計補正予算（追加議案）

災害復旧関連予算
3億8863万円

機械借上料
1億795万円

復旧工事費
7040万円

原材料費
4202万円

小中学校施設修繕
204万円

消防団員の出動報酬
192万円

測量設計委託料
9500万円

災害用保存食
48万円
500mℓの飲料水を3600本購入。

文化財施設災害復旧
850万円
糸野遺跡の法面改修

藤並駅のエレベーター修繕等
656万円

一般会計補正予算
4億415万円

応援クーポン第5弾
1億1721万円
一人あたり5000円分。18歳以下の子どもに1万円分のクーポンを配布する。

学校給食用材料支援
852万円

価格高騰重要支援給付金事業
1億1721万円
非課税世帯等に3万円を給付。3500世帯が対象見込み。

藤並駅観光所指定管理
270万円

中古農機具・施設リユース支援補助金
167万円

学童保育運営委託料
312万円

一般会計補正予算（専決処分）
2219万円

子育て世帯生活支援特別給付
令和4年度子育て世帯生活支援特別給付金を受給された方などに児童一人あたり5万円を給付。400人が対象見込み。

新しみず温泉新築工事請負契約

●建築工事
変更前…… 4億 664万8000円
変更後（渡り廊下工事追加） 4億3329万6600円
●電気設備工事…… 4752万円
●機械設備工事…… 1億4247万2000円

条例の一部改正

○保育所条例

保育所型認定子ども園に変更。

きび森の保育所の定数を250人から270人に変更。

問 保育所が認定子ども園に変わることで出てくる影響は。

答 保育所型認定こども園になり、保育の必要の有無にかかわらず、3歳児から5歳児の入所が可能となる。

問 令和8年度から国は「子ども誰でも通園制度」を開始すると発表した。0歳児から要望があれば入所できるようになる。しかし、各保育所の規模や保育士の人数など、受け入れ条件の整備が必要である。本町の考えは。

答 まだ決まったものでないが、町は国の方針を注視し、研究していく。

問 保育士の配置基準は変わらないか。

答 保育士の配置基準に変更はない。

問 延長保育料は必要にならないか。

答 事前に申請が必要になるが、延長保育料はいらない。

問 3歳児から5歳児の入園希望が多くなれば、吉備地域では現施設で対応できるか。

答 対応できると考えている。

○介護保険条例

コロナウイルス感染症の影響で収入が減少した方に減免措置をする。

○税条例

森林環境税を令和6年度から一人1000円徴収する。（防災施策加算1000円は令和5年度まで）

○国民健康保険税条例

限度額を102万円から104万円に引き上げる。軽減判定所得の拡充を行う。

○手数料徴収条例

コンビニで住民票などを発行する手数料を200円から100円に減額（マイナンバーカードが必要）。

○放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例

安全計画の策定、バス車内での安全確認を条例に追加。

問 安全点検リストの作成はいつまでか。また安全計画策定の進捗状況はどうか。

答 令和6年4月1日まで。

人数・立地条件などが各学童保育所で異なる。計画はそれぞれの事業者が策定する。

問 計画へ災害時の対応は入るのか。

答 各学童保育所で防災マニュアルを別に作成しており、定期的に訓練などを行っている。

○農業集落排水処理施設条例

田殿・吉見地区を公共下水道施設へ統合。

○火災予防条例

急速充電設備（電気自動車などの充電設備）が200kwを超える場合、消防署への届出が必要になった。

県町村議会議長会 自治功労者表彰

林　宣男 議員

11年以上にわたり、町議会議員として地方自治の発展に顕著な功労が認められ、和歌山県町村議長会より表彰されました。

令和5年第2回定例会の採決状況（誌面の都合上、賛否の分かれた議案のみ掲載します）

議案名 ＼ 議員名 ／ 結果	濃添	栗山	本下	椿原	中島	星田	谷畑	西	林	岡	森谷	堀江	増谷	殿井
有田川町税条例等の一部改正　承認	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	×	×	○
有田川町国民健康保険税条例等の一部改正　承認	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	×	×	○

（注）谷畑進議員は、議長のため採決には加わらない。　○は賛成　×は反対

新規採用職員 議会を傍聴

本年４月に新しく採用された町職員４人が、６月15日午前中の一般質問を傍聴し、アンケートに回答してくれました。

有田川町職員としての責務を自覚し、住民に信頼される職員として、職責を全うされることを期待します。

議場の雰囲気をどう感じましたか？

入室するときは皆さんお辞儀を行い、発言する時は、議長の許可も得ていて、厳かな雰囲気を感じました。

議員さんも職員さんも町のために質問や意見をたくさんされていて、更に町を良くしたいという姿勢を感じました。

議会が始まるまでは議員の方々も笑顔で会話していて「思っていたより暖かい雰囲気なのかもしれない」と思っていたが、議会がはじまると一気に締った雰囲気になり、傍聴席にいても身が引き締まるように感じた。

質問内容に対して分かりやすく、かつできるだけ簡潔に答弁が述べられていると感じた。

議会を映像として映し出すことでその場にいない人にも発言者の表情が見え、気持ちが伝わるものだと感じた。

初めて議会を傍聴したが、議場は厳かな雰囲気で議長の進行のもと、議会運営が円滑に進むよう規律や順序が守られていると感じた。

また、議場の両側や外側にはライブ映像がモニターに映し出され、ＩＣＴ化が進んでいると感じた。

「町所有のバスを小規模団体でも利用できるようにならないのか」という質問があったが、町長や部長が前向きな回答をされていて、私も住民の方の疑問、要望に「それはできない」と簡単に突っぱねるのではなく、前向きな回答をできるようにしたい。

豪雨での被害状況や「ありだがわ楽市」の成果を質疑応答することで今後の被害を軽減できたり、イベントをより良いものにすることができたと思った。このことからミスをした時に振り返りをして次に生かしていこうと思った。

業務に生かせる質問はありましたか？

公務上にはさまざまな規則やルールなど多くあるが、町民の要望に対して上司に相談したうえで臨機応変な対応が必要になると感じた。

先日の大雨時の学校への登校について、「警報がでると分かっていたが、生徒を登校させたのはどうなのか？今後どのように対応を行うべきか？」という質問が印象に残った。今回の経験を生かして今後の対応を考えていくのは良いと思った。

その他、議会を傍聴しての感想は？

議員の再質問の中で「この場は結果論でしか議論できない」との言葉が印象に残った。傍聴したどの質問にも今後についての質問・回答があり、個人的な感想ではあるが、議会とは、結果論でしか議論できないからこそ、成果、反省などの結果から今後について議論することで、有田川町の未来を考えるための場であるのだろうと感じた。

議会全体的に質疑応答がスムーズに行われていて内容も簡潔で分かりやすいものだと感じた。初めて議会傍聴に出席しその場の雰囲気を肌で感じることができ、貴重な時間だと思った。

質問に対しても納得ができるまで議論を行い、町民のことを思ってくださっていることがわかりました。議会の傍聴は初めて行いましたが、今回の研修で経験できて勉強になりました。ありがとうございました。

議長をはじめ、議会が円滑に進むよう順序や規律が守られていると感じた。また、質疑応答は質問議員、答弁者がお互い敬意を持って行われていて好感が持てた。

町民の考えや意見を聞くことができる貴重な場だと感じた。この経験から今後も議会に注目して町民の期待に応えられるようにしたい。

短冊に想いをのせて！

【町民の皆さまへ】

◎次回定例会の予定

令和5年第3回定例会は9月5日開会予定で、一般質問は9月14日、15日に行う予定です。

ぜひ、傍聴にお越しください。

◎請願・陳情の受付

第3回定例会での審議を希望する場合は、8月28日までに議会事務局へ提出してください。

お問い合わせ☎22-3294
吉備庁舎4階 議会事務局まで

広報広聴常任委員会

◎増谷憲
○濃添勇作
栗山昌之
本下雅敏
椿原竜二
岡省吾

◎は委員長
○は副委員長

編集後記

『災害は忘れたころにやってくる』と言われた頃は過去の話で、近年は『災害は毎年のようにやってくる』という心構えを持たなければならないと痛切に感じます。

去る6月2日の台風に伴う豪雨災害では、町内広範囲において甚大な被害が出ました。

冠水や土砂崩れなどの災害を目の当たりに……。

あらためて災害に強い「強靭なまちづくり」の構築が求められ、一般質問で多くの議員が災害対策を取り上げました。

そのような背景、この号では、今後の「強靭なまちづくり」に向けて災害特集を組みました。

本格的な台風の季節を控える中、防災意識をさらに高め、生命を守る行動が求められます。

（岡　省吾）